

令和6年度第3回公立大学法人滋賀県立大学教育研究評議会 議事録

日時・場所： 令和6年6月4日（火）13：28～14：24 教授会室

出席者： 井手理事長（議長）、宮川副理事長、小泉理事、松岡理事、中嶋理事、須戸環境科学研究院長、山根先端工学研究院長、森下人間文化学研究院長、古株人間看護学研究院長、丸尾環境科学部長、徳満工学部長、市川人間文化学部長、伊丹人間看護学部長、澤野事務局次長、遠山委員、森委員、宮本委員

事務局： 真溪総務課長、高木財務課長、寺村経営企画課長、川分学生・就職支援課長、郡田教務課長、小椋地域連携・研究支援課長、堀江高等専門学校開設準備室長、前田課長補佐、佐竹主任主事

令和6年度第2回公立大学法人滋賀県立大学教育研究評議会議事録（案）について、原案のとおり承認された。

審議事項

- 1 第3期中期目標期間における業務の実績に関する報告書（案）について
寺村経営企画課長から資料に基づき説明があり、審議の結果、一部文言修正のうえ承認された。
[主な意見・質疑等]
 - ・人権研修およびコンプライアンス研修については参加率100%を目指しているにも関わらず70%台でとどまっている。第4期中期計画期間においては参加率をより高めるよう取り組んでもらいたい。
→コンプライアンス研修については、オンデマンド配信を取り入れたことにより参加率が上がってきているため、参加方法の多様化など様々な工夫を検討していきたい。

報告事項

- 1 令和5年度卒業・修了者の進路状況等について
川分学生・就職支援課長から資料に基づき報告があった。
[主な意見・質疑等]
 - ・協定型インターンシップは普通のインターンシップとどのような違いがあるのか。
→インターンシップには、協定型と自由応募型がある。協定型は大学が学生と企業との間に入り、参加される企業を募り、学生とマッチングさせて実施するもので、教育の一環という位置づけである。一方、自由応募型は企業の募集に学生が直接応募して参加するもので、就職につながるものが多い。
 - ・合同説明会に参加した60社のうち県内企業の割合はどのくらいか。
→県内企業のほうが多かった。参加した企業にインターンシップを希望する学生が多くみられ、一定の効果があったと思われる。
- 2 令和6年度在籍学生数の状況について
川分学生・就職支援課長より資料に基づき報告があった。
[主な意見・質疑等]

・全学的に女子の比率が上がっている要因は、工学部の貢献(女子学生の比率の増加)が大きいのか。

→分析はしていないが、工学部の女子の比率が増えていることが一つの要因になっていると考えられる。

3 令和6年度学生表彰(未来人財奨励賞)について

川分学生・就職支援課長より資料に基づき報告があった。

[主な意見・質疑等]

・奨学金、奨励金、激励金の名称の違いは何か。副賞の用途は決められているのか。

→名称の違いに大きな意味はない。県で予算措置されている名称が奨学金となっていたため、その名称をそのまま使用している。用途について、特に定めはない。

4 客員研究員の受入について

伊丹人間看護学部長より資料に基づき報告があった。

5 各委員会の結果の概要について

(1) 令和6年度第2回将来構想委員会

(2) 令和6年度第1回衛生委員会

(3) 令和6年度第1回国際交流委員会

(4) 令和6年度第1回入試委員会

6 その他

(1) 国民スポーツ大会・障害者スポーツ大会について

小泉教育・学生支援担当理事より、令和7年度に開催される国スポ・障スポに対して、本学においても地域貢献やそれに基づく教育的効果等を考慮して、積極的に協力したいと考えており、学生や教職員がボランティアとして参加しやすいように期間中の休講措置やそれに伴う学年暦の変更を検討している旨報告があった。